

世界旅打ち気分

●第20回・フランスその2

須田鷹雄



アンジェ競馬場のゴールシーン



間近に見ることになった
アルジャンタンのスタート風景



味わいがあるフォンテヌブローの建物

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
#グリーンファーム会報#2019年12月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

「フーハスの競馬」というと、ローヌシャンやシャンティイ、夏だったりドヴィルを連想する人が多い」といふだろう。それらの競馬場もいずれنسでも決意して行かないとなかなか機会が無いような競馬場を取り上げようと思つ。

この連載の第3回にもフランスの旅打ちイロハのような話を取り上げており、そのときは「フランスの旅打ち」のよさを書いて、最後に簡単にアンギヤン競馬場とヴァンセンヌ競馬場について触れた。当時は公共の交通機関で行けることを念頭に書いたのだが、やはりなんだかんだで旅打ちはレンタカーを使えたほうがいいし、そうでないと不便なことがあります。そのあたりの悩みを盛り込みつつ、今回は3場をご紹介しよう。

まずは、主要場のひとつと呼んでよいであろう、フォンテヌブロー競馬場。その起源はルイ16世の統治下にあつた1776年まで遡るというから、相当な歴史だ。ちなみに1776年といえば、日本だと杉田玄白が解体新書を刊行した翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われたというだけだったそですが、現在地

も駅から競馬場は2・7キロ。往復歩くというのはかなり無茶だ。フランス語が話せないのに帰りのタクシーを競馬場の人には呼んでもらうといふのも心理的ハードルが高い。かといってアルジャンタンまで行ってしまうとレンタカー屋も無い模様。帰り死ぬ氣で歩くか、死ぬ氣で配車を頼むしかない。

そうまでしてその競馬場に行くべきなのかという話になるが、作りとて面白い競馬場なので見てみる価値はあると思う。この競馬場は平地競馬・障害競走のコースも備えている。馬術のクロスカントリーコースもあるようだ(競馬馬の木べページで見ると、馬術などで滞在する人向けの宿泊施設案内がある)。もちろん平地と繫駕が同時に行われる「とはないのだが、マルチタスクな競馬場の様子を見るだけでも面白いだろう。

スタンドは小さく、中はなにも無いといえばなにも無い。小さな売店と常連の競馬ファンがいるくらい。騎乗数の少ないジョッキーはお客さんにまぎれて観戦している。

余談だが、アルジャンタン競馬場の会長というか理事長のような

15～20分ほど。行きのタクシーは駅になんばでもいるが、最終レース

に競馬場が完成したのも1862年というから明治維新より前の話である。フォンテヌブローはパリから比較的近く、平地と障害の両方の開催があり、平地に関しては有名騎手や有名馬主所有馬(おなじみの勝負服)がたくさんいる。フランスの競馬に詳しくない人でも、騎手の名前を頼りに馬券を買つたり応援したりすることができる。

それだけならローヌシャンなどと同じことだが、フォンテヌブローは独特的のローカル感があるところが長所だろう。スタンドも「じんまりしているし、パドックもさして大きではなく、馬と人の距離が近い。旅打ちはレンタカーを使つたほうがいいし、それでないと不便なことがいいし、そうでないと不便なことがあります。そのあたりの悩みを盛り込みつつ、今は3場をご紹介しよう。

まずは、主要場のひとつと呼んでよいであろう、フォンテヌブロー競馬場。その起源はルイ16世の統治下にあつた1776年まで遡るというから、相当な歴史だ。ちなみに1776年といえば、日本だと杉田玄白が解体新書を刊行した翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

15～20分ほど。行きのタクシーは駅になんばでもいるが、最終レース

に競馬場が完成したのも1862年というから明治維新より前の話である。フォンテヌブローはパリから比較的近く、平地と障害の両方の開催があり、平地に関しては有名騎手や有名馬主所有馬(おなじみの勝負服)がたくさんいる。フランスの競馬に詳しくない人でも、騎手の名前を頼りに馬券を買つたり応援したりすることができる。

それだけならローヌシャンなどと同じことだが、フォンテヌブローは独特的のローカル感があるところが長所だろう。スタンドも「じんまりしているし、パドックもさして大きではなく、馬と人の距離が近い。旅打ちはレンタカーを使つたほうがいいし、それでないと不便なことがいいし、そうでないと不便なことがあります。そのあたりの悩みを盛り込みつつ、今は3場をご紹介しよう。

まずは、主要場のひとつと呼んでよいであろう、フォンテヌブロー競馬場。その起源はルイ16世の統治下にあつた1776年まで遡るというから、相当な歴史だ。ちなみに1776年といえば、日本だと杉田玄白が解体新書を刊行した翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

に競馬場が完成したのも1862年というから明治維新より前の話である。フォンテヌブローはパリから比較的近く、平地と障害の両方の開催があり、平地に関しては有名騎手や有名馬主所有馬(おなじみの勝負服)がたくさんいる。フランスの競馬に詳しくない人でも、騎手の名前を頼りに馬券を買つたり応援したりすることができる。

それだけならローヌシャンなどと同じことだが、フォンテヌブローは独特的のローカル感があるところが長所だろう。スタンドも「じんまりしているし、パドックもさして大きではなく、馬と人の距離が近い。旅打ちはレンタカーを使つたほうがいいし、それでないと不便なことがあります。そのあたりの悩みを盛り込みつつ、今は3場をご紹介しよう。

まずは、主要場のひとつと呼んでよいであろう、フォンテヌブロー競馬場。その起源はルイ16世の統治下にあつた1776年まで遡るというから、相当な歴史だ。ちなみに1776年といえば、日本だと杉田玄白が解体新書を刊行した翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた

16世の前で御前競馬が行われた翌年。このときは狩りに来たルイ16世の前で御前競馬が行われた